

守山まるごと活性化プラン検討委員会
第5回 学区別会議（小津学区）

日時：平成25年11月11日（月）

19：30～21：30

場所：小津会館

次 第

1. あいさつ
2. 説明
 - 本日の進め方
 - 第4回のふりかえり
3. 意見交換
 - プロジェクトの絞り込み
 - 取り組み実現の方向
 - まちづくりのテーマ
4. 今後の進め方
5. 一言感想

守山まるごと活性化プラン検討委員会（学区別会議）委員名簿

【 小津学区 】

H250807 現在 敬称略

No.	自治会	名前		
1	金森	沢井 進一	さわい しんいち	男
2	金森	寺田 恭章	てらだ やすあき	男
3	金森	堀 家隆	ほり いえたか	男
4	三宅	三品 長一郎	みしな ちょういちろう	男
5	三宅	田中 昇治	たなか しょうじ	男
6	三宅	田中 健一	たなか けんいち	男
7	大林	中西 雅義	なかにし まさよし	男
8	大林	吉田 則夫	よしだ のりお	男
9	大林	木瀬 みよ子	きせ みよこ	女
10	欲賀	寺田 康夫	てらだ やすお	男
11	欲賀	奥村 正	おくむら ただし	男
12	欲賀	寺田 守	てらだ まもる	男
13	欲賀	池田 仁美	いけだ ひとみ	女
14	森川原	寺田 博重	てらだ ひろしげ	男
15	森川原	森田 好次	もりた よしつぐ	男
16	森川原	森田 廣	もりた ひろし	男
17	山賀	松村 茂	まつむら しげる	男
18	山賀	猪飼 博雅	いかい ひろまさ	男
19	山賀	堀尾 和子	ほりお かずこ	女
20	杉江	井本 滋美	いもと しげみ	女
21	杉江	杉江 清作	すぎえ せいさく	男
22	杉江	前田 智史	まえだ さとし	男
23	杉江	木村 正治	きむら まさはる	男
24	三宅稲葉	井上 猛	いのうえ たけし	男
25	三宅稲葉	村松 孝夫	むらまつ たかお	男
26	三宅稲葉	浜砂 秀紀	はますな ひでのり	男
27	金森山柿	神谷 一郎	かみたに いちろう	男
28	金森山柿	渡部 哲夫	わたべ てつお	男
29	金森山柿	神谷 ゆう子	かみたに ゆうこ	女

事務局

- ・濱崎一志（アドバイザー：滋賀県立大学 人間文化学部教授）
- ・川上 肇
- ・坪内稔夫
- ・田淵誠一
- ・中島 勉
- ・吉原史雄
- ・倉嶋佑介
- ・中島史郎
- ・足立慎也
- ・貞松純子

守山まるごと活性化プラン検討委員会 学区別会議 ニュースレター

第4回 学区別会議 【小津学区】

平成 25 年 10 月 15 日（火）午後 7 時 30 分から小津会館において、守山まるごと活性化プラン検討委員会の第 4 回学区別会議を開催しました。

小津学区にお住まいの住民 22 名で、まず前回会議で出された学区のまちづくりを進めていく上での課題や方向性について、大きな見落としがないかなどふりかえりました。次に、学区のまちづくりの具体的取り組みについて話し合い、最後に参加者同士で共有しました。

学区別会議の様子

■当日のプログラム

- ①挨拶：三品学区長より
- ②内容説明：本日の進め方、第 3 回検討結果の説明
- ③テーブルに分かれて意見交換：『前回会議のふりかえり』、
『学区のまちづくりの取り組みを考える』
- ④結果の発表・共有：テーブル毎で話し合った内容を発表して共有



▲結果を発表し参加者で共有

テーブル毎に小津学区の『まちづくりの具体的取り組み』について話し合いました



▲▼テーブル毎に話し合いました



- 3つのテーブルに分かれ、前回会議で出された小津学区のまちづくりを進めていく上での「課題」や「方向性」の確認を行いました。その後、学区の「たからもの」と「課題」を関連づけて、学区のまちづくりの「具体的取り組み」について話し合いました。
- 『学区の課題』として、多様な市民のニーズを適切に把握し活用することや、若い世代を主役とした仕組みづくりが必要という意見などがありました。また、『活性化の方向性』における農業に触れるきっかけや制度づくりの取り組みとして、貸し菜園をきっかけとしたコミュニティスペースづくりなどがあげられました。
- 『具体的取り組み』では、史跡や水辺を結ぶウォークルートの整備や、案内看板づくりを通じた地域の魅力再発見・共有、レンタサイクルと連携したサイクルロードマップづくり、といった多くの意見が出されました。
- 『具体的取り組み』を進めていくための課題として、地域の宝ものを住民にも知ってもらうことや、宝ものを地域の個性溢れるものとしていくこと、などがあげられました。

守山まると活性化計画 学区別会議実施記録 第4回

1. 実施概要

学区・回	小津学区 第4回
日時	2013年10月15日(火) 19:30~21:30
会場	小津会館
参加者	住民22人(金森3人, 三宅2人, 大林3人, 欲賀3人, 森川原2人, 山賀3人, 杉江2人, 三宅稲葉3人, 金森山柿1人) 守山市(川上, 中島(史), 坪内, 吉原, 足立) 地域未来研究所(田淵, 貞松, 倉嶋)
会場設営	4テーブルを設置し、自治会に関係なく抽選で着席
実施経過	<p>1. 挨拶</p> <p>①開会挨拶(坪内課長補佐)</p> <p>②開会挨拶(三品学区長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3回の会議を受け、10月3日に全体会議が開催された。各学区が出してきた課題には似通ったものもある中で、小津学区があげていた「生成りのままでやっていく」ということが一番キラリと光っていた。一時的な目的のために集まるのみでは、活性化としては不十分。皆が自然に集まれるような良い方法を検討していければと思う。 <p>2. 説明</p> <p>①本日の進め方(田淵)</p> <p>②第3回検討結果の説明(田淵)</p> <p>3. 意見交換(テーブル別ワーク)</p> <p>①前回のふりかえり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回の会議結果を整理した資料を見ながら、課題の見落としや示された視点への違和感がないかどうかについて確認を行った。 ・再検討結果の概要は、各テーブルのファシリテータより報告された。 ・『学区の課題』として、多様な市民のニーズを適切に把握し活用することや、若い世代を主役とした仕組みづくりが必要という意見などがあつた。また、『活性化の方向性』における農業に触れるきっかけや制度づくりの取り組みとして、貸し菜園をきっかけとしたコミュニティスペースづくりなどがあげられた。 <p>③学区のまちづくりの取り組みを考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たからものとまちづくりの課題を関連づけて、どんなことができるか、何をしたら学区が元気になるかについて、具体的な取り組みを各自で考え、カードに書いてもらった。 ・カードは模造紙に貼り、グルーピングして概略の特徴を整理した。 ・ <p>4. 結果の発表・共有</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーブル毎に参加者の代表が活性化の取り組みについての検討結果を発表した。

- ・『具体的取り組み』では、史跡や水辺を結ぶウォークルートの整備や、案内看板づくりを通じた地域の魅力再発見・共有、レンタサイクルと連携したサイクルロードマップづくり、といった多くの意見が出された。
- ・『具体的取り組み』を進めていくための課題として、地域の宝ものを住民にも知ってもらうことや、宝ものを地域の個性溢れるものとしていくこと、などがあげられた。

5. その他

- ・次回会議の開催日時は、11月11日（月）19:30～、小津会館にて開催が決定された。

小津学区第4回会議の様子



2. 第4回会議の意見まとめ

小津学区の活性化の具体的な取組み（アイデア）をまとめた。【主なもの】

<小津学区のまちづくりの具体的取組み>

■小津袋、山賀内湖、湖岸周辺、芦刈園等の水環境の保全と活用

- ① 水辺の散策路。春夏秋冬を通して周辺の人々と憩える場づくり。
- ② レンタサイクルと連携したサイクルロードマップの作成。
- ③ 環境を破壊しない、自然な環境づくり。
- ④ 住民の現状認識と行動力の醸成や、学区を横につないだ連携の為の体制づくり。

■新守山川の整備と活用

- ⑤ 桜並木や自転車道の整備。
- ⑥ 河道を整備して人が中に入れるようにし、自然とふれあうことができる環境づくり（遊歩道）。
- ⑦ 新守山川でのお花見等のイベント実施や、川をきれいにする活動の展開。

■水に育まれた文化の発見

- ⑧ 湧き水が豊富な小津における古くからの名残を発見・整理し・活用し、他市との市民同志の交流につなげていく。

■公園を活用した健康づくり

- ⑨ 健康づくりのための遊歩道を、興味を持って歩けるような環境にする。
- ⑩ 木を登る、岩登り、鉄棒など、総合的な体力づくりの施設を作る。

■ホタルが育つ環境づくり

- ⑪ ホタル鑑賞ルートの小津学区まで延長。夏の夜を楽しむルートづくりなど、ホタル保護の取組みやイベントの開催。
- ⑫ 自治会で「ほたる保護区」を設定し、自治会有志（含子ども、ファミリー）で推進。

■季節の花が溢れる環境づくり

- ⑬ 四季の花が育つそれぞれの場所で花畑をつくる。
- ⑭ 季節毎の花の場所を紹介（パンフレットなどで）し、ゆっくり鑑賞できる環境を整備。
- ⑮ 有志で「街を小ざれいにしよう会」をつくる。雑草のはえない施工・舗装方法の研究・開発。

■湖岸からの眺望の活用

- ⑯ 新守山川全体を公園に。歩道の整備や、ベンチ、照明等の設置。学区全体で花見会の開催など。
- ⑰ 夕日百選への登録。

■遺跡史跡・寺社仏閣・ゆかりの人物を味わう

- ⑱ 魅力を伝える看板や標識の作成等を通して、地域への愛着や住民同士のつながりの醸成。
- ⑲ 史跡やゆかりの地等を結ぶ魅力的なウォーキングルートの作成。
- ⑳ 小学生、中学生が楽しく学習しながらまわるスタンプラリーやウォークラリー等の開催。

■自治会館を活用した憩いの場づくり

- 自治会館を開放し、サロン等を開設し、皆が集うことのできる場をつくる。

■長刀祭の継承

- 今後も末永く継承していくため、共通する資機材の共有化を行う。
- 氏子全体で継承していくための仕組みづくり。

■田畑を活用した『農』の再生

- 使っていない畑を活用して子どもが楽しめるイベント作り。
- 無人野菜売場をいくつか設け、案内図なども掲げて野菜売場をつなげる。旬な野菜の紹介などもして、農業に関心を持ってもらう。
- 田んぼを貸し農園として希望者に貸し出し、敷地内にはBBQ等ができ皆が集まれる場所を作る。
- 県外から農業担い手を募集する（就職難の解消、非正規雇用の解消）。

■若者の参画・定住を促進する仕組みづくり

- 婚活推進員制度の創設（昔の仲人の役割）。

2.1 学区のまちづくりの取り組みのアイデア

分類	活用するたからもの	活性化の取り組み
小津袋、山賀内湖、湖岸周辺、芦刈園等の水環境の保全と活用	川の水の流れ	一年中水が流れる川で子どもが水遊びができるようにする（山賀川）
	蓮、オオバナミズキンバイへの対策	現在の刈り取りによる作業では最終目的は不可。草津、守山境界に天板でも打ち蓮の広がりをとめる。
	小津袋、山賀内湖、湖岸周辺	水辺の散策路。外から訪れる（観光ポイント）。周辺の人々との憩いの場づくり。散策路として活用
	湖岸公園、山賀内湖、下水道処理場の跡地	親水性を確保。水草の除去。ふれあい憩いの場に
	湖岸周辺	カヌー体験など
	芦刈園	きれいな公園のように整備し、維持して、市内～県内～県外のリピーターを増やす。
	新守山川、小津袋	自然な環境づくり（環境を破壊しないで） 管理上の課題も多い
	芦刈園・バラ園	芦刈園・バラ園を活用し（見学）サイクルロードマップを作成する。守山駅～草津駅（栗東駅）のレンタサイクルを活用。 守山駅→バラ園→芦刈園→風車（ハス）→栗東駅・草津駅
	赤野井湾（小津袋）・芦刈園	通年を通じた、住民の現状認識と行動力
	新守山川、小津袋	学区を横につないだ連携の為に体制づくり
	小津袋	水辺公園。貸しボート。釣り堀。

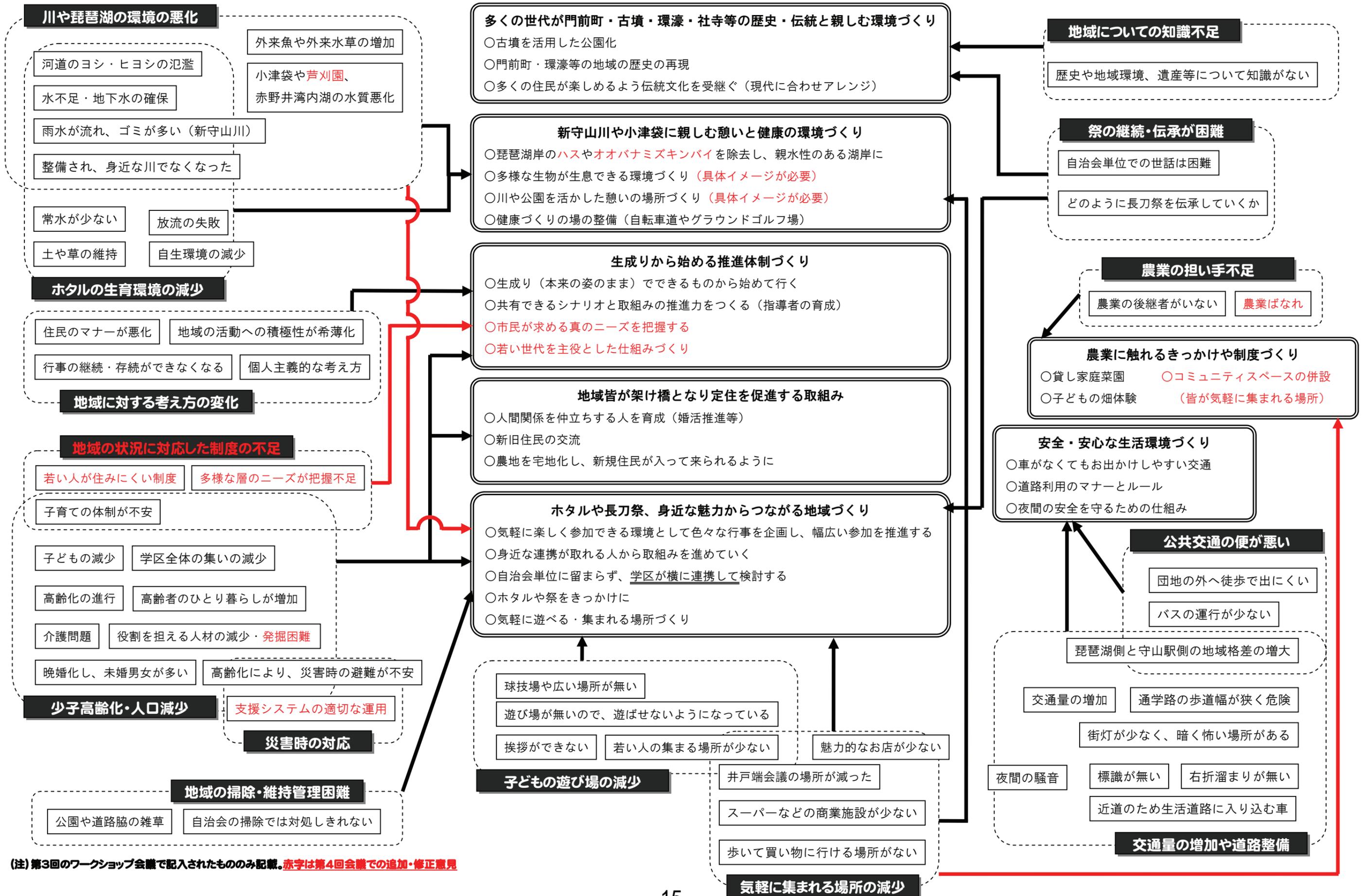
分類	活用するたからもの	活性化の取り組み
新守山川の整備と活用	新守山川の管理用道路を活かす。山賀～金森 3.5 km。	桜並木と自転車道の整備
	千力～JAまでの桜並木	これを活かし延ばして自転車道に
	新守山川	桜並木、植樹
	〃	小津学区共通のたからものとして堤防を活用する（改修と併せて整備する必要あり）。 桜、サイクリングロード等。
	新守山川の見応えのある桜並木（欲賀）	遊歩道、自転車道の設置
	新守山川	自転車道、遊歩道、ポケットパーク等の整備
	新守山川、境川の管理道路	桜並木とサイクルロードの整備
	桜	サイクルロードの整備、サイクルツアー
	新守山川	河道を整備して人が中に入れるようにすることにより、自然とふれあう（遊歩道）
	桜	新守山川のお花見。川をきれいにする活動。
水に育まれた文化の発見	新守山川	自転車道、グラウンドゴルフ場、憩いの場所
	水の文化（湧き水の復活）	小津には昔からの地名が多く残っている。その整備をすることにより新しい住民からの目線で気づきができるのではないか。
	歴史資源（金森長近、蓮如と門前町、信長と一向一揆、環ごうなど）	昔のなごりがあちこちに残っている。湧き水が豊富な小津でその整備をし、まちづくりの中で取り上げ、歴史的な広がりは大きく、他市との市民同志の交流にもつながっていく。
公園を活用した健康づくり	立命館附属前の公園（花壇）	花を植えて花道をつくる
	運動公園他	健康づくりの遊歩道を興味を持って歩けるような環境にする
	〃	総合的な体力づくりの施設を作る（屋内及び屋外）木を登る、岩登り、鉄棒他いろいろ。簡単な鉄棒とか体力づくりに使える物を設置（安全については自己管理）

分類	活用するたからもの	活性化の取り組み
ホタルが育つ環境づくり 季節の花が溢れる環境づくり	ホタル	河川的环境整備（当番制で維持管理）
	ホタル	現在守山市で取り組んでいるが、まだまだ活性化に至っていない。昔のようにJRに依頼しホタル電車を設定する。
	身近な水資源	ホタル保護の取組、イベント
	新守山川・ホタル	小津の可能な自治会は「ほたる保護区」を設定し、自治会有志（含子ども、ファミリー）で推進する。
	境川、野洲川の伏流水	市のホタル鑑賞ルートを小津学区まで延長し、夏の夜を楽しむルートづくり 水が汚れているから増える要素がない
	ホタルなど季節のイベント	各自治会に1本井戸を掘りホタル、湾の美化、防火用等総合的に利用する
	ふれあい広場、ジョギングコース	春・夏・秋・冬、四季にイベントができ、一年を通して参加できる催しを考える。（春の桜祭り、夏のホタルは思いつくが、秋と冬のテーマを考えて欲しい。）年中お祭りがあるコミュニティが望ましい。
	季節を感じる花	小津学区モデル地区。
	ゴミのない雑草の生えていない街小津	場所の確保。樹木の育成。 地域の個性あるたからものをつくる
	季節を感じる花、虫も含め	四季の花、それぞれの場所の花畑をつくる
季節を感じる花	自治会有志で「街を小ざれいにしよう会」をつくる。道路端などに雑草のはえない施行方法、舗装方法の研究・開発。	
山々の眺望	季節毎の花がどこにあるか紹介（パンフレットなどで）してゆっくり鑑賞できる環境を整備する。	
新守山川（山々の眺望）	バラ園・芦刈園等は中途半端。春夏秋冬に散策できる場所とする。市費の投入。 夕陽百選に登録	
湖岸からの眺望の活用	新守山川（山々の眺望）	全体を公園に。歩道の整備。ベンチ、照明等の設置。学区全体で花見会。

分類	活用するたからもの	活性化の取り組み
遺跡・寺社仏閣・ゆかりの人物を味わう	<p>歴史を語る遺跡</p> <p>地域の歴史蓮如上人ゆかりの地</p> <p>史跡</p> <p>歴史を語る遺跡</p> <p>歴史資源（金森長近高山城主）</p> <p>神社仏閣、各所など</p> <p>寺社仏閣の活用</p> <p>神社、寺院など</p> <p>歴史遺産（寺社・城跡）</p> <p>歴史を語る遺跡</p>	<p>観光資源として遺跡巡り、歴史ツアー</p> <p>山賀湖岸から金森まで</p> <p>小津及び他の守山の史跡及びそれらを結ぶルートを含め整備（景観・安全性）し、魅力的なウォーキングルートをつくる。小学生、中学生が楽しく学習しながらまわる工夫をする（ウォークラリーなど）</p> <p>巡礼のような取組。歩いて回る例えば遺跡の説明とか。朱印。</p> <p>信長・秀吉・家康3代に仕えた金森長近は青年時代を金森で過ごした。</p> <p>共通デザインで標識と由来を書いたものを作る</p> <p>寺社仏閣を巡るルートマップを作成し、ウォーキングに活用する</p> <p>秘仏公開期間などを設けてスタンプラリーのような催しをする。歴史の好きな方、新住民の方で地元の歴史を知りたい方親子で参加できるよう。</p> <p>副読本化。ルート化。地域の人の再認識。観光活用。</p> <p>小学生（高学年）にできる説明＝看板を各地に作る。この活動自体が共同作業、つながりを生むと考える。</p> <p>協働作業がながりを生む</p> <p>仏教の歴史を知るためのイベントを行う。コンサート等、人が集まる内容。</p> <p>自治会館の開放（月1回程から）誰でも集う</p> <p>サロンなどを開設し、皆が集まれる場所をつくる</p> <p>今後も継承するため共通する資機材の共有化</p> <p>住民も知ってもらう工夫</p> <p>氏子全体で継承していく</p>
自治会館を活用した憩いの場づくり	<p>神社仏閣</p> <p>地域の憩いの場</p> <p>自治会館など</p>	<p>自治会館の開放（月1回程から）誰でも集う</p> <p>サロンなどを開設し、皆が集まれる場所をつくる</p>
長刀祭の継承	<p>長刀祭</p> <p>長刀祭の伝承</p>	<p>今後も継承するため共通する資機材の共有化</p> <p>住民も知ってもらう工夫</p> <p>氏子全体で継承していく</p>

分類	活用するたからもの	活性化の取り組み
田畑を活用した『農』の再生	<p>農村後継者の転出</p> <p>農地</p> <p>田（稲）</p> <p>農業の担い手</p> <p>農産物</p> <p>空いている田んぼ</p> <p>レンゲ畑</p> <p>農地</p>	<p>できるだけ同じ集落内や学区内にとどめる。調整区域内での住宅が容易に出来るように制度を改善。地区計画の活用。</p> <p>水田の宅地化を条件付きでもう少し容易に出来るようにする。若い世代も学区内に住めるように。畑を家庭菜園として貸し出すシステムを作る。現在も個人交渉では行われている。</p> <p>稲を活用したアートの作成（コンクールをする）</p> <p>農業を体験する機会を（教育の場）</p> <p>無人野菜売場をいくつか設け、案内図などもかかげて野菜売場をつなげる。旬な野菜の紹介などもして、農業に関心を持ってもらう。</p> <p>田んぼを貸し農園として活用。希望者に貸し出し、敷地内にはB B Qなどができる皆が集まれるスペースを作る。</p> <p>使っていない畑を活用して子どもが楽しめるイベント作り</p> <p>県外から農業担い手を募集する（就職難の解消、非正規雇用の解消）</p>
若者の参画・定住を促進する 仕組みづくり	30代40代の未婚男女	全市的取組。婚活推進員制度（昔の仲人の役割） 独自の制度をつくる

小津学区の課題・活性化の方向性



(注) 第3回のワークショップ会議で記入されたもののみ記載。赤字は第4回会議での追加・修正意見

守山まるごと活性化プラン（小津学区）の取組内容について

1. 小津学区のまちづくりの将来像のテーマ（案） → 1案に絞る

- 案1：生成りてつくるふれあいのまち 小津
- 案2：蓮如上人の教えが息づくやさしさの水辺
- 案3：小津は人と水と歴史がつながるまちをめざします
- 案4：気づけばみんな小津っ子のまち

2. 小津学区の住民主体のまちづくりプロジェクト（案）

■プロジェクト1 人と琵琶湖がつながり親しむ環境づくりプロジェクト

小津袋、山賀内湖、芦刈園など、湖岸に位置する豊かな水資源を活用して、四季を通じて人と水とが親しむことが出来る環境の創造を図るとともに、水環境を守り育てていきます。

- 取組1 四季を通して憩える環境づくり
→環境を破壊しない、自然な水環境づくり
→水辺の散策路を整備し、行き交う人が春夏秋冬を通して憩う場の創出
- 取組2 サイクルロードマップの作成
→駅のレンタサイクルと連携した、水資源を巡るサイクルロードマップの作成
- 取組3 誘客促進に向けた取組み
→整備した環境を守りながら、多方面からの観光客を増やすとともに、小津を好きになってもらう

■プロジェクト2 新守山川触れ合い環境整備プロジェクト

小津学区を流れる新守山川を活用し、イベントの実施や花畑の整備など、人が集う・行き交う仕組みや環境を創出します。

- 取組1 イベントや活動の実施
→お花見イベントや、川をきれいにする活動の展開
- 取組2 桜並木や自転車道の整備
→桜並木を拡充整備し、自転車が安全に通行できるように
- 取組3 河道の整備
→人が川に入り、水を中心とした自然と触れ合うことができる環境づくり

■プロジェクト3 湧き水に育まれた小津の文化発見プロジェクト

地名や歴史資源など、小津に数多く残る昔のなごりを整理し、歴史的な広がりを見ながらPRしていくことで、住民の地域への愛着の醸成や、他市との市民同士の交流に結びつけます。

- 取組1 小津の地名とその由来の再発見
→昔からの地名を収集・整理し、地域の歴史を再発見
- 取組2 水資源と歴史資源との関係性を紐解く
→金森長近、蓮如と門前町、信長と一向一揆、環濠などのまちの歴史と、小津

■プロジェクト4 公園で健康づくりプロジェクト

小津には、憩いや楽しみのために整備された公園がいくつもあります。これらの公園を活用して、一人ひとりが楽しみながら健康づくりを行える環境を整備します。

●取組1 楽しみながら運動ができる環境の整備

→遊歩道について、花道をつくるなど興味を持って楽しみながら歩けるような環境に

●取組2 総合的な体力づくりの施設整備

→木登り、岩登り、鉄棒など、体力づくりに使えるような施設を整備

■プロジェクト5 ホタルが育ち光るまちプロジェクト

小津学区では、夏の夜になるとホタルが飛び交う幻想的な光景がみられますが、近年ではその数を減らしつつあります。そこで地域を挙げてホタルを育成・保護し、学区の魅力として磨き上げます。

●取組1 ホタル保護区

→ホタルの正しい育成・保護法の勉強

→自治会で「ホタル保護区」を設定し、有志で推進

●取組2 ホタルの育成・保護を通じたホタルと触れ合う環境づくり

→ホタル観賞ルートの延長

→夏の夜を楽しむルートづくり

→他季節のイベントと連携し、年中お祭りがあるコミュニティに

■プロジェクト6 季節の花が溢れる色彩の庭プロジェクト

小津学区には、バラ園や芦刈園など、季節の花々を味わい・親しむ場所があります。これらの場所とも連携しながら、地域の各所に春夏秋冬四季を通じて花々を鑑賞・散策できる環境をつくります。

●取組1 四季の花畑づくり

→四季の花が育つそれぞれの場所で花畑をつくる

●取組2 四季の花畑を地域の魅力としてPR

→季節の花を紹介するパンフレット等を作成しPRすることで、多くの人々に憩いを提供

●取組3 「まちを小ざれいにしよう会」の結成

→まちの美化に向けた取組みの推進や、雑草の生えない施工・塗装方法などを勉強

■プロジェクト7 比叡・比良の眺望活用プロジェクト

琵琶湖岸から見える比叡山や比良山地、三上山の眺望などは、見た人の心を掴んで離さない大

きな魅力があります。この眺望を地域の魅力として磨き上げるため、眺望を堪能できる公園や歩道、ベンチや照明を整備し、イベントの開催など人が集うきっかけをつくります。

●取組1 夕日を味わう環境の整備

→歩道の整備や、ベンチ、照明等の設置

●取組2 イベントの企画・実施

→学区合同の花見会など、景観を味わうイベントの開催

●取組3 日本の夕日百選

→湖岸からの眺望を夕日の名所として磨き上げ、日本の夕陽百選への選定を目指します。

■プロジェクト8 歴史を語るたからもの継承プロジェクト

小津学区には、蓮如上人や小津神社など、地域の歴史を語るたからものが数多くあります。これら魅力を再発見・再整理し、楽しみながら愛着を深めることができる仕組みを検討するとともに、次世代へ継承してきます。

●取組1 みんなで魅力の再発見・再整理

→歴史的な魅力を伝える看板や標識などの作成を目指し、住民みんなで地域のたからものを整理することで、地域への愛着や住民同士のつながりを醸成

●取組2 ウォークルートの造成

→史跡やゆかりの地等を結ぶ魅力的なウォークルートの作成

●取組3 若い世代も楽しめるイベントの実施

→小学生や中学生が楽しく学習しながら参加できるスタンプラリーやウォークラリー等の開催

■プロジェクト9 憩いの自治会館プロジェクト

自治会館で積極的に様々な活動を催すことで、地域のコミュニティ活動を活発にするとともに、皆が自然に集まってこれるような場をつくることで、地域の皆が仲良く助けあって暮らしやすいまちをめざします。

●取組1 自治会館の開放

→月1回程度、自治会館を開放し、様々な催しが自由に開催出来る場をつくる
→地域の様々なコミュニティ活動の活動促進

●取組2 サロンの開設

→サロンなどを開設し、住民のさらなる集いを促進

■プロジェクト10 長刀祭へいらっしやいプロジェクト

国選択無形民俗文化財にも指定されている長刀祭は、1400年とも言われる長い歴史をもつ祭です。この長刀祭を今後も末永く継承していくため、幅広い世代が参画して、学区内外の様々な人が楽しみながら受け継いでいけるような仕組みをつくります。

●取組1 知識や資機材の共有化

→長刀祭の基礎的な知識や使用する資機材を学区全体で共有し、より身近な祭としての認識を育む

→幅広い世代に祭りのことを楽しく知ってもらうための仕掛け

●取組2 氏子全体で受け継ぐ仕組み作り

→長刀祭を氏子全体で継承していきための意識共有や連携体制の構築

●取組3 祭の誘客促進・PR

→長刀祭の歴史やイチオシの楽しみ方などを幅広くPR

■プロジェクト11 農からはじまるお付き合いプロジェクト

利用可能な田畑を活用し、農業体験や販売所、貸し農園などを展開することで、農業をきっかけとした学区内街の住民の交流を図ります。

●取組1 田畑を活用した農業体験イベント

→子どもが楽しみながら農業に親しむことができるイベント

●取組2 野菜販売所の開設と、複数の販売所を結ぶ案内図の作成

→各販売所で異なる野菜の販売や、旬な野菜の紹介、他の販売所の紹介

●取組3 貸し農園の開設と、コミュニティスペースの併設

→希望者に貸し農園として貸出、敷地内にはBBQなどができ、皆が集まれるような場所をつくる

●取組4 農業の担い手の募集と、初期支援

→県外などから農業の担い手を募集し、参画を支援するとともに、担い手として育成

■プロジェクト12 若者の定住促進プロジェクト

若い世代を中心に、幅広い世代の小津への定住を促進していくため、地域の課題を把握・整理し、住みやすい環境の実現に向けて取組めます。

●取組1 地域の課題整理

→快適に暮らすにあたって日頃困っていることや、改善して欲しい課題などの抽出・整理

●取組2 若い世代のニーズ把握

→若い世代は何を求めているか・どんな土地に住みたいかなどの、定住に関するニーズを把握

●取組3 人間関係推進員制度（婚活推進員制度）

→外部の人材が入ってきやすいよう、昔の仲人のような役割を担う人材を育成し、住民間の人間関係などを取り持つ